

第五回

第103号
21. 11. 15

発行 編集委員会

事務局 荏原第五地域センター

TEL 3785-2000

編集委員

豊1	田中	光子
豊2	北村	紀子
豊3	土橋	史江
豊4	佐藤	仲男
豊5	藤本	三子
葉1	塚本	博良
葉2	櫻井	夫夫
葉3	神尾	長尾
葉4	中島	美恵
葉5	川名	義男
葉6	小林	紀子

歴史と緑のまち「えび」探訪

絹を訪ねて

絹織物を使用するものに、紋付（家紋の付いた礼・正装用和服）があります。私達の町には、黒紋付染を行っている(有)安藤孝染工場（二葉一丁目）があります。伝統工芸に魅了されつつ、思いは絹織物にとどまらず生糸に及び、「かつて取引のあった」といふ、世界遺産暫定リストに記載された富岡製糸場（群馬県富岡市）に足を伸ばすことになりました。



(有)安藤孝染工場

創業明治12年、130年の伝統を守り続ける黒染の5代目安藤博理社長を取材しました。初代が山梨県出身のため「甲州黒」という方法で染め、銘柄は『桂川黒』です。13の工程を経て、仕上がっていく品物は見事なものです。最近では少なくなつた



茶釜で黒染作業中のスケッチ。その後手前の水槽で余分な染料を洗い流します。水槽は井戸水が絶えず流れています。



ベトナムの縫製工場

襟を正すとは姿勢を正して心を引き締めるといふ意味ですが、まさに着物に袖を通した瞬間、背筋を伸ばす緊張感は心地良いものです。

という七五三用の紋付の紋糊作業の様子を見学しましたが、仕立てあがった紋付に袖を通す子どもの姿が目浮かぶようでした。安藤さんは、着物に関する事業を展開し、(株)染装の名でベトナム（ホーチミン市）で仕立てを行っています。最初は5名で現地に通す縫いの指導に行き、現在は500名の従業員を雇用しているそうです。

黒紋付染の作業工程

- ① 白生地を紋所を印付け（積もり入れ）
- ② 紋の種類別に紋型を起す
- ③ 紋型を紋所に裏表がずれぬ様に貼る
- ④ 紋糊を紋型の部分に置く
- ⑤ 紋糊を一昼夜乾かす（以降翌日）
- ⑥ 約95度の染浴で一時間程かけて染める
- ⑦ 約一時間の水洗
- ⑧ 乾燥
- ⑨ 紋糊を落とす
- ⑩ 薄い糊を引いてさらに乾燥
- ⑪ 生地幅を揃えたり、小じわを伸ばす整理加工（湯のし）
- ⑫ 場合によっては注文によりガード加工（撥水、撥油 加工）
- ⑬ 紋糊により白く抜けた紋所に紋入れ（上絵）

富岡製糸場

「近代日本の夜明け」となる、明治政府の掲げた二大国家策が富国強兵と殖産興業。当時、輸出品の主力であった生糸の生産アップを目指して、日本で最初の官営模範工場が明治5年に誕生しました。

ヨーロッパの技術と日本独自の工法が融合してできた、世界最大規模の製糸場。近代日本を象徴する建築物として、百三十九年を経た今も、圧倒的な存在感で訪れる人を魅了してくれまます。また、昭和62年の操業停止時そのままの自動操糸機などが、当時の工女の様子を蘇らせてくれます。

明治26年に12万円で三井家へ払い下げ、昭和13年片倉工業(株)へと渡り、昭和62年



取材で現地を訪れた編集委員

「こ」で研修して全国へ

全国から技術伝習生として、15〜25歳の若く優秀な子女が集められました。彼女たちはその後、それぞれの地元で建設された製糸場の指導者として、日本産業の近代化発展に貢献しています。

学生動員の経験

現在二葉3丁目に住んでいる方で、昭和20年4月1日から8月15日（終戦）まで、富岡市高瀬の自宅から徒歩30分の、当時は片倉工業(株)富岡製糸所と名称が変わっていた工場に「学生動員」で通っていた経験の持ち主が居ます。そこでは、絹糸で『落下傘』を作った記憶があるそうです。戦時中ですから、作業中は周りの人と会話することもなく、ただただ黙々と働いていたようです。

古紙を配合した紙を使用しています

祝・杜松開校130周年

明治12年に誕生。「すずめの学校」と呼ばれた時代や、戦後の困難な時期を経て重ねた歴史。小中一貫校への統合は4年後ですが、思い出はそれぞれの胸の中にいつまでも残っています。

校長先生の指導 佐藤 仲男

小学4・5年生(昭和8・9年)当時のこと。習字の授業で筆の扱いは慣れていたつもりでしたが、校長先生から「書道展に作品を出してほしい」と言われ、あらためて指導を受けながら苦労して書き上げました。今、まともな字が書けるようになったのも、校長先生のおかげと感謝しています。

戦時下の通学 塚本博良

戦中から終戦を経た、昭和17年から23年の間通学しました。その間、縁故疎開として富山県滑川の寺への学童疎開、終戦で我が家に戻るが、校舎は大きな残骸で、焼失していました。戸越小学校に間借、バラック校舎への通学でした。「中庭があった」校舎が思い出の一つとして残っています。

新幹線と母校 額 修

110周年の航空撮影のとき、新幹線の上り下りがすれ違う瞬間を入れるため、ながーいこと校庭で待ち続けました。しかし、タイムリミットを失い撮れませんでした。20年経った今も、心残りです。

親子キャンプ

富士山の下、パオに泊まって



バスの中のレクリエーションから、荷物の運搬や食事の準備など、事前の打合せが入念にされていました。我が家は家族で参加しましたが、各グループ(少人数)に大人の班長さんが付きますので、子どもだけでも安心して参加できる体制でした。スケジュールもゆつくりで、自然を感じながら自分のペースで楽に過ごすことができました。



とても美味しかったです。親子ともに新しいお友達や知り合いもでき、「参加してよかったです」と思っています。どうもありがとうございました。

(二葉から参加の父母)

パッタとり、カヌー、動物のエサやり、山の斜面での(ダンボール)そり、キャンプファイヤー、花火、星空観察、パオで宿泊、体育館でバレーボール、いっぱいお友達と遊びました。また行きたいです。

(小5女子)

戸越小学校 (10月17日) 祝・開校75周年記念

昭和9年6月28日開校の朝、「東京一美しい学校」と写真入で新聞で紹介されました。生徒は974人。戦後は午前・午後の二部授業もあり、その後一年中体操で過ごす「業間体育」で体力をつけ、風邪を引かない元気な子になったそうです。

式典では各学年が嗜好を凝らし、また25年後の100周年の再会を約束して、思い出をタイムカプセルに入れました。

《50周年時のカプセル公開》

大勢の卒業生が集まる中で25年前のカプセルの公開。「自分のが有ってうれしい」、親子共々お世話になり「25年後の作品を見るのが楽しみ」、当時の録音テープに「あつぱパダ」との子どもの声、それぞれに懐かしく語り合っていました。

新任町会長を紹介しします

小林政敏さん(豊町5丁目町会)



昭和13年1月戸越生まれ。東京大空襲に遭い、父の郷里新潟に疎開、学生時代を過ごす。「中川前

会長」の意志を継いで、会員の皆さんと共に、明るい町、安心して住める町づくりを目指します。

趣味は、「ウォーキング」と、酒好き仲間と美味しい地酒を探し、味わうこと。

東京スカイツリー情報

10月末高さ190M

634M
600
500
400
300
200
100
0

テレビは、平成23年7月に地上デジタル放送となります。そのため、東京タワー(333m)より高い電波塔「東京スカイツリー(634m)」が2年後の完成を目指して、東武・伊勢崎線の業平橋駅前(墨田区押上1丁目)で空に向かって建築中です。

お年玉クイズ

ハガキに答え・住所・氏名・年令を記入して送ってください。(応募は荏原第五地区内に在住で1家族1名とします)

しめきり 平成21年12月7日(月) 当日消印有効(持参可)

賞品 正解者の中から10名の方にお届けします
〒142-0043 品川区二葉1-3-37 荏原第五地域センター TEL 3785-2000

もんだい 平成22年にガンバル動物です

つれづれなるままに、日暮し、硯にむかひて・・・吉田兼好の徒然草の序段です。ずれずれなるままに、放っておくと、痛み増す・・・近頃私を悩ます関節のずれです。親指関節のずれを抑える「かぐや姫」というコルセットに出会いましたが、それは「おやゆび姫」の方が適したネーミングでは?と思いつつ、今装着しています。Dr・O、お世話になります。

額 健康願